

# 施策評価シート

幹事部局

健康福祉部

施策の名称	V-2-(2) 高齢者の活躍推進
施策の目的	人生100年時代を見据え、高齢者が生きがいを持って地域の支え手として活躍できる社会を目指します。
施策の現状 に対する評価	<p>(高齢者の学びを地域活動を繋げる仕組みづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者大学校の在學生、卒業生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施されている。</li> <li>・ 介護予防や閉じこもり予防など、地域の高齢者に対する健康づくり活動を推進する「健康づくり推進員」を毎年度養成しており、年々増加している。</li> </ul> <p>(生涯現役の機運醸成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現役で活躍する健康な100歳長寿者や75歳以上で生産活動やボランティア活動等を行っている高齢者を顕彰することにより、高齢者はもとより、広く県民の生涯現役の意識づくりに寄与できた。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者大学校(くにびき学園)については、事業実施主体である県社協に外部有識者等も加えた「見直し検討会」を設置し、地域活動の担い手育成へのカリキュラムの重点化や卒業後の活動につなぐ仕組みの構築などを進めた。</li> <li>・ 健康福祉祭のうち美術展について運営方法を見直し、より多くの高齢者が参加できるよう、市町村老人クラブからの推薦(持ち回り)に切り替える。</li> <li>・ 生涯現役証は、協賛店舗や市町村を対象とする広報に加え、高齢者向けタブロイド紙による広報を実施する。また、新たな広報先(保育所等)を開拓する。</li> </ul>
今後の取組 の方向性	<p>(高齢者の学びを地域活動を繋げる仕組みづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ くにびき学園のカリキュラムの見直しに加え、学園の在學生、卒業生の地域活動参加への支援や、圏域における関係機関の連携体制の構築・強化等を行うため、学園コーディネーターを東部と西部にそれぞれ配置する。</li> <li>・ くにびき学園の運営及び卒後の地域活動に関して協議するため、くにびき学園運営協議会を東部と西部にそれぞれ設置する。運営協議会は、行政職員のほか、福祉関係団体、社会教育関係団体、就労支援団体等の代表者で構成する。</li> </ul> <p>(生涯現役の機運醸成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者向けタブロイド紙やイオン(株)との包括業務連携協定などを活用し、高齢者はもとより全世代に向けた健康長寿や生涯現役などの広報啓発を強化していく。</li> </ul>



事務事業の一覧

施策の名称	V-2-(2) 高齢者の活躍推進
-------	------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	生涯現役社会づくり推進事業(県民意識啓発)	県民	心身ともに健康で社会的な関わりを持ち続けながら生活している高齢者に対する認定証の交付や顕彰を通じて、生きがいづくりと健康づくりへの意識を高める。	756	5,927	高齢者福祉課
2	互助の仕組みづくり推進事業	老人クラブをはじめとする地域で活動する高齢者グループや個人	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。	75,594	48,584	高齢者福祉課
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

高齢者福祉課

事務事業の名称		生涯現役社会づくり推進事業(県民意識啓発)			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	心身ともに健康で社会的な関わりを持ち続けながら生活している高齢者に対する認定証の交付や顕彰を通じて、生きがいづくりと健康づくりへの意識を高める。		756	5,927
今年度の取組内容	生涯現役者認定証:75歳以上の高齢者の生きがいと健康づくりの意識の高揚を図るため、75歳を過ぎても生産活動やボランティア活動等を行っている者に交付。 健康超寿者表彰:高齢者の生きがいと健康づくり意識の向上を図るため、100歳以上の現役で活躍する健康な長寿者を顕彰。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	協賛店舗や市町村を中心とした広報に加え、高齢者向けタブロイド紙による広報を実施。 職員への周知や他課へ協力依頼を行い、新たな広報先(保育所)を開拓する。				
1	上位の施策	V-2-(2) 高齢者の活躍推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県政世論調査で現在喜びや生きがいを感じているものがあると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	目標値		89.0	89.0	90.0	90.0	91.0	%	単年度値
		実績値	84.2							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	生涯現役証交付者数【当該年度3月時点】	目標値		3,700.0	4,100.0	4,500.0	4,900.0	5,300.0	人	累計値
		実績値	3,306.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・生涯現役証総交付者数(R2年3月末日現在): 3,306人 県内の75歳以上の高齢者の人口(R元年10月1日現在): 123,459人、75歳以上人口に占める交付割合: 2.7% ・健康超寿者表彰数(R元年度): 4名(総表彰数: 70名(H18~)) ・悪徳商法等の高齢者向け研修会や啓発活動等の実施回数: 142回								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・生涯現役証の交付枚数は、前年より減少している。(H30:388 → R元:242人) ・現役で活躍する健康な100歳以上の長寿者を顕彰することができ、高齢者はもとより、広く県民の生涯現役の意識づくりに寄与できた
課題分析	① 課題	ア)生涯現役証の発行割合は75歳以上の方の約2.7%という状況であり、広がりを欠いている。 イ)国にも100歳の高齢者に一律に記念品等を贈呈する事業があり、元気な100歳以上の高齢者という県事業の趣旨が分かりにくくなっている。
	② 原因	ア)生涯現役証交付事業の目的や仕組みの認知が不十分である。 イ)県の顕彰事業の趣旨(長寿であることはもとより現役で活躍していること)が十分に発信されていない。
	③ 方向性	ア、イ)生涯現役証、健康超寿者表彰ともに、魅力的な取組となるよう、より効率的かつ効果的なPRとなるよう、高齢者向けタブロイド紙やイオン(株)との包括業務連携協定にかかる協働取組などを活用し、一体的な広報を行う。 ア)生涯現役証については、情報発信と一体的に実施することで、より効果的に生涯現役の機運醸成を図るため、改めて民間委託の可否を検討する。



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

高齢者福祉課

事務事業の名称		互助の仕組みづくり推進事業			
目的	誰(何)を対象として	老人クラブをはじめとする地域で活動する高齢者グループや個人	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。		75,594	48,584
今年度の取組内容	①老人クラブの助成、②老人クラブ等活動推進事業:老人クラブ活動の活性化を図るため、県老人クラブ連合会に対して推進員の設置や活動に必要な経費を支援。市町村老人クラブ連合会の活動支援を通じて高齢者の社会参加の促進を図る。 ③高齢者大学校運営事業:高齢者大学校を適切に運営し、継続的な学習の場を確保するため、県社会福祉協議会に対し、運営に係る経費を補助するとともに、来年度予定している新学園の開学に向けて検討を進める。 ④健康福祉祭運営事業:県健康福祉祭の開催と全国健康福祉祭への選手派遣を円滑に行うため、県社会福祉協議会に対し、県大会開催や派遣に係る経費を補助。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	高齢者大学校については、事業実施主体である県社協に、外部有識者等も加えた「見直し検討会」を設置。県庁内も部局の垣根を越えて検討を進め、地域活動の担い手育成へのカリキュラムの重点化や卒業後の活動につなぐ仕組みの構築などを今後進める。令和元年度の入学募集は一旦停止し、令和2年度に新学園を開学。				
1	上位の施策	V-2-(2) 高齢者の活躍推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県政世論調査で地域活動、ボランティア活動など社会的活動に喜びや生きがいを感じていると回答した70歳以上者の割合【当該年度8月時点】	目標値		20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	%	単年度値
		実績値	23.7							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2	くにびき学園入学者数【当該年度9月時点】 ※カリキュラム見直し等のため令和元年度は募集停止中	目標値		75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	人	単年度値
		実績値	0.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・地域社会の中核的な高齢者グループである老人クラブの活動や、地域活動の担い手となる高齢者の育成及び高齢者スポーツ・文化活動に対する支援を行っている。 ・県内の単位老人クラブ数:777クラブ(R2.3.31現在)、県内の単位老人クラブ会員数:32,671人(R2.3.31現在) ・令和2年度の新しくくにびき学園設置に伴い、令和元年度の学生募集を停止したため、実績値0。 ・健康福祉祭の参加人数:2,377人(うちスポーツ:2,096人、文化交流:111人、美術展:170人)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・老人クラブ数及び会員数は減少しているが、健康づくり推進員(介護予防、閉じこもり予防など地域の高齢者に対する健康づくり活動を推進する実践者)は毎年度養成しており、年々増加している。 ・高齢者大学校の在籍生、卒業生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施された。 ・健康福祉祭を一つの契機として、高齢者がスポーツや文化活動、地域貢献活動に、よりいきいきと取り組む気運醸成につながった。
課題分析	① 課題	ア) 高齢者大学校の見直しのみで、卒業生に地域活動の担い手として多方面で活躍いただくには限界がある。 イ) 一部の老人クラブを除き、活動が衰退してきている。 ウ) 健康福祉祭は、参加者以外の健康増進や生きがいづくりに繋がっているとは言い難い。
	② 原因	ア) 高齢者の地域の担い手と捉えて、地域活動に繋ぐ仕組みが不足している。 イ) 老人クラブに必要な人材の確保ができていない。 ウ) 健康福祉祭の認知度を高める取り組みや、意義を伝える取り組みが不足している。
	③ 方向性	ア) 高齢者大学校は現在のカリキュラムの見直しに加え、卒業生を担い手を求める地域や団体に繋ぐ仕組みを構築する。 イ) 高齢者はもとより全世代に向けた健康長寿や生涯現役などの広報啓発を強化していく。 ウ) 健康福祉祭のうち美術展について運営方法を見直し、より多くの高齢者が参加できるよう、市町村老人クラブからの推薦(持ち回り)に切り替える。